

都道府県名	青 森 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	弘前市立致遠小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	4	4	4	2	24	31
児童数	101	94	105	129	129	121	7	686	

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の定着を図る個に応じた指導の研究 算数科の指導を通して
-------------------------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1～6学年・算数科において実施 児童の理解の状況に差が出やすい教科であり、他の教科よりも学習内容の系統性・関連性や連続性が重要視される教科であるため。
--

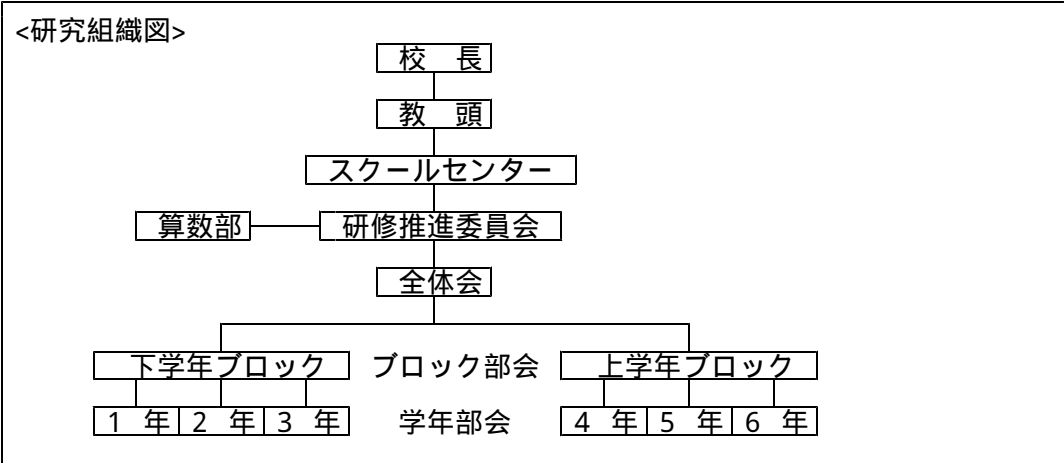
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本の定着を図る個に応じた指導の研究 算数科の指導を通して</p> <p>研究の見通し(仮 説)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>子どもにとって必要感があり、個々の考え方や解決方法が生かされるような問題設定や導入の仕方を工夫することによって、自らの「問い」をもって主体的に学習を進めることができるだろう。</li> <li>算数的活動を効果的に取り入れることによって、追求しようとする意欲を持つことができるだろう。</li> <li>個々の算数的表現力（思考過程の表現）を磨く場をつくり、友だちに関わっていく力を育てることによって、生き生きと学習に向かうようになるだろう。</li> <li>自力解決の場面で個に応じて支援を工夫し、評価を適切に行うなど、きめ細かな指導を繰り返すことによって、基礎的・基本的な力を培うことができるだろう。</li> </ol> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>内 容           <ol style="list-style-type: none"> <li>学習意欲を高める教材開発や導入の工夫</li> <li>主体的に学びとる算数的活動のあり方</li> <li>算数的表現力（思考過程の表現）を磨く工夫</li> <li>個に応じた指導方法・指導体制の工夫</li> </ol> </li> <li>方 法           <ol style="list-style-type: none"> <li>日常の授業実践における実践研究を中心に</li> <li>ブロック部会・学年部会による共同研究（授業実践や研究授業についての協議、共同研究、協力的指導体制の確立）</li> <li>協力的指導体制の工夫               <ul style="list-style-type: none"> <li>全学級でTTを導入した授業を行う。</li> <li>学年部会でTT授業、習熟度別授業、課題選択別授業など指導体制を決定し、その効果的な指導法を工夫する。</li> </ul> </li> <li>研究授業により研究仮説の妥当性についての検証、成果・改善・工夫</li> </ol> </li> </ol>
--------	--

	すべき内容を明らかにする ・24学級全学級の公開授業(2・4・6学年提案授業) (5)学習会 ・学力向上フロンティア事業について ・TT指導、少人数指導・習熟度別授業について ・先進校視察など
--	---

平成16年度	<p>テーマ 基礎・基本の定着を図る個に応じた指導の研究 算数科の指導を通して</p> <p>研究の見通し(仮説)          1.単元の特性や児童の実態に応じた指導方法、指導体制を工夫することにより、追求する意欲を持ち、主体的に学習を進めることができるだろう。          2.学習過程において、個に応じて支援を工夫し、評価を適切に行うなどきめ細かな指導を繰り返すことによって、基礎的・基本的な力を培うことができるだろう。          3.一人一人の力に合わせて発展的な学習や補充的な学習の内容を工夫することにより、基礎・基本を定着させることができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法          1.内 容          (1)算数科の特性に応じた指導法のあり方          ・算数的活動の効果的な取り入れ方          ・算数的表現力向上のためのコミュニケーション力の育成のあり方          (2)単元の特性や児童の実態に応じた指導形態の工夫          (3)評価方法と評価を生かした指導の工夫          (4)発展的な学習や補充的な学習のあり方          2.方 法          (1)日常の授業実践における実践研究を中心に          (2)ブロック部会・学年部会による共同研究(授業実践や研究授業についての協議、共同研究、協力的指導体制の確立)          (3)協力的指導体制の工夫          ・全学級でTTを導入した授業を行う。          ・学年部会で教材の特性・児童の実態などに合わせて指導形態を決定し、その効果的な指導法を工夫する。          (TT授業、習熟度別授業、課題選択別授業など)          (4)研究授業により研究仮説の妥当性についての検証、成果・改善・工夫すべき内容を明らかにする          ・24学級全学級の公開授業(校内)          ・公開発表会で授業を公開</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



### <スクールセンターの設置>

協力的指導体制の確立のためにスクールセンター（以下SC）を設置

センター担当者

校長・教頭・教務主任・研修主任・養護教諭・加配教員

担当の内容

TT指導や少人数指導・教科担任制授業（5年社会・6年理科）・個別指導

担当者の役割

- ・TT指導や少人数指導についての年間計画の組み立て
- ・算数科や教科担任制授業や個別指導に関わる時間割の作成
- ・TT指導や少人数指導における単元の指導計画作成
- ・教材教員の作成

センター担当者が行う個別指導

- ・SCでの個別指導：学年の学習内容にとらわれない一対一の個別指導
- ・学級での個別指導：TTとして学級の学習に入るが、支援を要する児童に付いてプライベートに支援する。

### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

- ・一学期のアンケート調査によると、「算数が好き」と答えた児童は、5学年で72%、6学年で77%であった。二学期末の学習後に、「興味・関心をもって学習できた」と答えた児童は、5学年、6学年共に95%であった。教科に関する好き嫌いを超えて、学習に向かう意欲を感じられるようになった。
- ・前年度の学力テスト分析によって落ち込みのある単元を抽出してTT指導の単元を決定し、TT指導の年間計画を作成することによって、加配教員3名で全学年22学級にTTを導入することができた。
- ・初めに指導体制ありきではなく、各学年が児童の実態や単元の特性に合わせて指導形態を選び、TT授業や少人数授業、習熟度別授業、課題選択別授業など学年の自主性によって目的を持って研究を進めることができた。
- ・習熟度別授業を進める中で、特に低位の児童が「発表がしやすい」「ゆっくり考えられていい」「わかりやすく楽しい」など、周囲のペースを気にせず伸び伸びと学習する姿が見られ、単元終了後「学習したことが分かった」と答えていた児童は6学年では100%近くあった。
- ・TT授業について、授業後5学年では97%の児童が効果があると答えていた。「分からない時に聞きやすい」「全員の考えをよく見てくれる」「分かりやすい」「楽しく勉強できる・おもしろい」などの効果を感じ、「興味・関心をもって学習できた」95%、「学習したことが分かった」99%と自己評価し、個に応じた指導による学習内容の定着度が上昇している。
- ・ノート指導に継続して取り組むことにより、学習の流れに合わせて自分でノートを作ることができるようになった。

#### 2. 今後の課題

- ・算数科の特性をふまえた指導法の日常実践、研究実践を更に大切にして研究を進めなければならない。
- ・「わかる」から「できる」ための時間のあり方の見直しとして、ドリルタイムへの取り組みを組織的に行う必要がある。
- ・発展的な学習・補足的な学習への積極的な取り組みがなされなければならない。
- ・単元、領域の特性やそれに関わる児童の学力の実態やニーズなどにより合った指導体制や指導方法を選択すること。
- ・多様な評価方法の研究、工夫がなされなければならない。

### 学力等把握のための学校としての取組

定期的な学力調査の実施

<CRT学力検査（国語・算数）全学年で実施>

・目的

各学年の基礎的基本的な学習内容定着の到達を知り、到達が十分でない児童に対して、年度末までに再学習することにより、基礎的基本的内容を身につけさせるため

・時期 1月末

- < N R T 学力検査 (国語・算数) 5・6 学年で実施 > 弘前市全校で実施
- ・目的 (本校)  
全学習内容について、全国平均との比較により、本校児童の学力を相対的に捉え、今後の学習に生かすため。
  - ・時期 4月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年 7月 管内小・中学校長研究協議会にて、事業の概要や取り組みについて資料発表
- ・平成16年 5月 管内小・中学校教務主任研究協議会における発表
- ・平成16年 7月 管内小・中学校長研究協議会における発表
- ・平成16年10月 公開発表 (学区内の小中学校を対象)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       5年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
 13～18学級                       19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
 一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
 生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
 体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無